

## かめのりスクール 2019 報告

**【目的】** 日本語を学んでいるアジア 6 カ国の高校生と日本の中高生が交流を通じて、相互理解を促進する

- 【目標】**
- ① コミュニケーション能力を伸ばす
  - ② グループ活動を通して、深く考える力、創造する力を伸ばす
  - ③ 異なる文化を持つ人との交流を楽しむ

**【参加者】** アジア（中国、韓国、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム）の高校生 12 名  
日本人中高生 18 名

**【スケジュール】**

2019 年 7 月 20・21 日	アジア生来日
7 月 21 日～26 日	かめのりスクール 2019@東京
7 月 26 日～29 日	かめのりスクール 2019@御殿場
7 月 30 日	アジア生帰国

### 【かめのりスクール 2019@東京】

7 月 20 日夜から 21 日午前にかけて、アジア 6 カ国から 12 名の高校生が成田空港に到着した。中国は成都外国語学校、ベトナムはハノイ国家大学外国語大学附属高校、韓国は韓国日本語研究会、インドネシア、タイ、フィリピンは現地国際交流基金日本文化センターの推薦で選ばれた日本語を学んでいる高校生たちで、ほとんどが初めての来日であった。



今年は梅雨明けが遅く、7 月中はぐずぐずとした天気が続いていたが、それが却って街歩きをするアジア生にとって暑すぎず、1 人も体調を崩すことなく東京での日程をこなすことができた。街歩きは大学生スタッフの引率で行われ、初日の新宿、2 日目の原宿、渋谷、明治神宮、4 日目の藤子・F・ミュージアムは PASMO を持って皆勇んで出かけていった。3 日目は、バスをチャーターし、歌舞伎座ギャラリー、江戸東京博物館、浅草を回った。文化体験として 2 日目に和太鼓、3 日目に茶道を体験したが、それぞれ伝統が受け継がれている様に実際に触れ、一つひとつの道具の意味の説明も受けて、参加生達は感動した様子であった。



かめのりスクールで最も重要に思っていることの一つは毎日の振り返りである。毎晩、その日見聞きしたことや体験したこと振り返り、驚き、新しい発見、疑問などを話した。まず自分ひとりで何をしたか、何を感じたかを思い出し、次に隣の人とシェア、そしてグループに発表していった。日本語で話すことが難しい場合は、英語で話してもよいとし、皆の思いのシェアに重点を置いた。人の多さ、人の歩くスピード、街がきれいなことに驚いたという意見が多く出たが、ビルの床の材質が自分の国と違うという発見を教えてくれた参加生もいた。日本で生活をしている私たちにとってはごく普通のこと新鮮に映るようだった。また、プログラムが進むにつれ、発言が街の様子発見から次第に自分自身の発見へと変わっていったことは大変興味深いことであった。国は違っても同じ日本語学習者としてここでは安心して自分を出すことができた、自分の居場所が見つけれられた、頑張っている自分を発見した、という発言である。日本語力に差があり、興味のあることにも違いはあるが、「仲間」としてお互いにサポートしあうようになっていた。



参加生は7月24日から26日に2泊3日のホームステイを経験した。ホストファミリーの方々には「日常生活を体験させてください」とお願いしていたが、銭湯や温泉に連れて行ってくださったり、浴衣、花火大会、お祭りなど日常より少し「日本的」な場面を参加生達は体験することができたようだった。また、参加生のリクエストで大学キャンパス見学や古本屋巡りをしたご家庭もあり、「ホストしたことで自分たちも普段できないことができた」と言ってくださった。



### 【かめのりスクール@御殿場】

7月26日12時半、東京駅に日本人中高生17名（1名は御殿場現地で合流）とアジア生12名が集合し、かめのりスタッフ3名、大学生スタッフ4名を加えて御殿場YMCA 東山荘に向けたバスが出発した。すでに数日間を共にしているアジア生に対し、ほとんどが初対面の日本人参加者のほうが緊張した面持ちであった。しかし、バスの中で行おうと予定していた自己紹介やアイスブレイクのゲームは必要のないほど車中の会話は盛り上がり、御殿場に着くころには皆が笑顔になっていた。



御殿場到着後は、開会式、オリエンテーション、アイスブレイクゲームを経て、東山荘内のオリエンテーリング、夕食後は「アジアの旗」作成をした。「アジアの旗」は5人のグループに分かれ、まず「旗は何のためにある?」「アジアのイメージは?」というブレインストーミングを行った後、カラフルな旗が作成されていったが、どれも未来のアジアの力を感じさせてくれるものになった。アジアと一口で言っても言語、民族、文化、慣習、宗教など多種多様である。このセッションを通じて、「アジア人」という仲間意識を持つこと、特に日本人参加者が「日本とアジア」ではなく「私たちアジア」と認識を新たにすることを願ったセッションでもあったが、アジア生の想像力と創造力に触発されて、皆が期待通りのインパクトを受けたようだった。



2015年から始まったかめのりスクールは毎年改善を重ねながら第5回目を迎えた。2016年から「つたえる・つたわる」をテーマとして採用しており、伝え方について様々な視点から考え、伝わるコミュニケーション力を伸ばす研修を目指している。「伝えたいことを伝えるように伝える」難しさを2日目の導入セッションから体験させ、受け取る側のことを考えて伝えることを学んだ。4日目（最終日）午前の最終発表は、グループごとに与えられたキーワードをスキットで表すというもので、キーワードは「支え合う」「努力する」「探求する」「挑戦する」「思

いやる」「認め合う」の6つを選んだ。

まずグループ（アジア生2人、日本人3人の5人構成）ごとに与えられたキーワードを深く考え、どういう意味なのか、どういうときに使うのか、そのキーワードを使って誰にどのようなメッセージを伝えたいかをディスカッションした。休憩時には日本語や補助の英語で比較的自由に楽しく会話できていた参加者たちであったが、ディスカッションは日本語の語彙が少ないアジア生とどのように意見交換をするかで葛藤する日本人参加者と自分の意見を上手に日本語で伝えられないもどかしさを感じるアジア生双方が大いに悩む時間となった。

今年も昨年から導入した「えんたくん」を使用した。その効果は大変大きかったと思う。「えんたくん」は直径1メートルの円形の段ボールの板で、円に座った数人の膝にのせてテーブルとして使うものである。「えんたくん」の上には同じサイズの丸い紙を置き、自由に書き込んでアイデアを広げていくことができる。「えんたくん」を膝の上に載せることで、自分がグループに必要な不可欠なメンバーであることが否応なく感じられる。頭を突き合わせて、という言葉が実際の状況となるわけである。



2日目の夜は、アジア生が国や家族、学校生活を紹介する「アジアン・ナイト」を楽しんだ。彼らのプレゼンテーションを聞いて、日本人参加者たちはインターネットやメディアの報道からしか知らなかったアジアが一気に身近なものに感じていた。また、民族衣装を着て一生懸命プレゼンを行ったアジア生から、彼らの国の文化、伝統への尊敬の念も生まれた。同時に、最後は全員で K-Pop のダンスで盛り上がり、彼ら世代の共通項も見つけたようだった。



「かめのりスクール」は東京・御殿場の全日程を通して大学生スタッフが毎日数名入り、財

団スタッフをサポートしてくれた。御殿場では4名の大学生が、主にレクリエーションを担当、朝の運動、「アジア・ナイト」、休憩時のゲーム、3日目夜のキャンプファイヤーを準備、実施してくれた。長梅雨や台風の影響であまり天気恵まれず、御殿場でも一回も富士山を見ることはできなかったが、幸いキャンプファイヤーは楽しむことができた。火を囲んでダンスや歌、また参加者が一言ずつ思いを話し、最後の夜ということもあって、更に全体の一体感が高まった。



最終日の午前中はスキット発表会、振り返り、閉会式を行った。御殿場プログラムは3泊4日と短いものであったが、東京駅に集合したときとは天と地ほどの差がある晴れやかな表情を誰もが見せていた最終日であった。



### 【体験発表会・歓送会、帰国】

7月29日、御殿場から東京に戻り、夕方ホストファミリーの方々をご招待して、体験発表会と歓送会を行った。体験発表会では、一人ひとりがこの9日間を振り返り、毎日何をして、何を学んできたか、日を担当してスピーチを行った。1時間ほどしかスピーチの準備時間はなかったが、皆自信をもって素晴らしい日本語を披露した。ホストファミリーも多くご出席くださり、どのテーブルも話が盛り上がっている様子だった。2泊3日という短い時間の共有にもかかわらず、「また日本に帰ってきます」「その時は必ず連絡してね」という嬉しい会話がどのテーブルからも聞かれた。

7月30日、12名のアジア生は無事に帰国の途についた。怪我も病気もなく終えることができたことがまず何よりよかったことである。アジア生も日本人参加者も皆自分の意志で参加を希望してきたが、この機会を誰もが最大限に生かしていたように思う。「かめのりスクール」が彼らのこれからの挑戦への第一歩となってくれることを願う。

以下はアジア生のアンケートの一部である。

- ・ 日本人ともっとはなせます。もっとゆうきあります。
- ・ 短い間ですけど、この9日間自分は本当にせいちょうして来ました。どう説明すれば良いか分かりませんが、社会に必要な事をもらいました。
- ・ もっとかつどうてきな人になった。人とはなしをするのがこわくなかった。
- ・ ともだちをいっぱいつくった。
- ・ I am now more challenged and is very eager to push myself to strive harder in learning Nihongo to be able to understand and communicate with them because of this great experience.
- ・ I have so many experiences here that has taught me. One of them is time. In my country, time is not that giving importance by people.
- ・ Not only in my Japanese ability, I also changed my feelings and my dreams. I truly believe more in myself, and yet I want to study abroad in Japan!

報告：(公財)かめのり財団  
橋本成子